

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 16 日現在

機関番号：32689

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2012～2014

課題番号：24320045

研究課題名(和文)日本のメディアアートの成立過程と現在

研究課題名(英文)Historical Background and Current Situation of Japanese Media Art

研究代表者

草原 真知子(Kusahara, Machiko)

早稲田大学・文学学院・教授

研究者番号：40271366

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 10,700,000円

研究成果の概要(和文)：日本の現在のメディアアートにおける工学との融合やプレイフルネス、実験的精神などの特質を歴史的・文化的視点から論じ、戦前・戦後の前衛芸術運動の流れと関連づけて分析した。これは2004年から開始したデバイスアート・プロジェクトの展開としての側面と同時に日本のメディアアートを国際的なコンテキストにおいて位置付ける試みであった。研究成果は国際的な場で学会発表、講演、シンポジウム、執筆などの形で公開され、日本のメディアアートを理解する上での手がかりとして評価された。

研究成果の概要(英文)：The research analyzed specific features in Japanese contemporary media art such as playfulness and appreciation of technology in relation to prewar and postwar avant-garde art. It is both the continuation of Device Art project that was launched in 2004 and a theoretical approach to contextualize Japanese media art within the international movements in art. The research results were presented at international symposia and publications and were highly received as a clue to understand Japanese media art.

研究分野：メディアアート、映像文化史、デジタルメディア

キーワード：メディアアート 戦後前衛芸術 デバイスアート

1. 研究開始当初の背景

近年、国際的に日本のメディアアートに対する関心が高まっており、研究代表者も参加して理論面での整備を行ったデバイスアートへの反響も大きい。一方、戦後の日本前衛芸術の再評価が国内で進み、単に美術史として扱うのではなく当時の社会的背景との関係から分析するアプローチが 3.11 以後の動きとして出てきた。海外でも日本の戦後前衛芸術に対する関心が高まり、主要な美術館で大規模な展示が行われた。

2. 研究の目的

戦後前衛芸術はテクノロジーや社会との関係という視点からも直接的にそれを担ったアーティスト、教育者の系譜からも、現在のメディアアートの前駆と見ることができる。本研究では日本のメディアアートの成立過程と現在の様相を総合的に捉え、戦後前衛芸術及び多様な視覚メディアの実験が融合して現在のメディアアートが成立したプロセスを明らかにする。

3. 研究の方法

資料の整理、掘り起こし、インタビュー等を行い、一次資料の集積を図る。50 年代から 70 年代までの前衛芸術運動を今日のメディアアートの視点から振り返ると同時に現在の日本のメディアアートにおいて日本に特徴的な要素と見られる点を分析することで、日本のメディアアートと社会・文化・歴史の相互関係について考察し、日本のメディアアートの展開を体系的に理解する視点を提示する。これらから得られた知見を国際的な場で示し、議論を通じて理論的に構築する。

4. 研究成果

(1) 一次資料の収集及び文献調査

本研究の目的の一つは資料の収集と整理にある。そのため、研究代表者の所蔵する多くのビデオテープのデジタル化を行い、現在も進行中である。

本研究の開始はちょうど日本の戦後前衛芸術運動への関心が高まり、また、日本のビデオアートの第一世代の高齢化に伴い、アーカイブ構築やオーラルヒストリー収集の動きが盛んになった時期と重なった。本研究遂行中に出版されて大き

な反響を呼んだ馬定延氏による「日本メディアアート史」もその一つである。本研究ではビデオアート・実験映画の先駆者4人にインタビューを行い、またパイク・アベ・シンセサイザーの共同制作者である阿部修也氏の実演及び講演を開催するなど、資料の掘り起こしを行うことができた。これらは1970年前後におけるビデオと映画の接点に関する貴重な資料である。特に東京でははじめて阿部氏自身によって公開されたパイク・アベ・シンセサイザーの実演と講演にはメディアアート、ビデオアート、実験映画などの関係者が多く参集し、パイク・アベ・ビデオシンセサイザーの紹介と今後のこの分野の研究に大いに貢献したと言える。同時期にアメリカ西海岸で行われていた実験映像のライブ実演に関する資料や東欧における初期コンピュータアートに関する情報も海外の研究者との交流の中で得ることができた。また、本研究の遂行の期間に日本の前衛芸術運動に関する本格的な展示が屋内外で立て続けに開催され、それに伴って分厚いカタログなど多くの資料が出版された。これらの展示をできる限り見ると同時に海外からも資料を収集した。また戦後すぐから1970年代までの雑誌などの資料、ウェブ上に散見される関係者の談話などを極力収集した。研究期間後半にこれらの展示や出版が相次いだため、それらすべてを研究に繰り込むことはできなかったが、これらの資料は今後の研究の継続のために重要である。

(2) 海外への発信

日本のメディアアートについてアメリカ、中国、台湾、ポーランド、オーストリアなど世界各地で基調講演や発表、シンポジウムを行い、日本のメディアアートの成立過程とその文化的特質について国際的に発信し、研究成果を異なる文化圏において問うことにより、理論の検証を試みた。Ars

Electronica2014ではデバイスアート10周年展の作品選定、カタログ執筆、パネルディスカッションを行い、多くの貴重な意見が得られた。これらの活動の成果として、日本のメディアアートについて海外の研究者による言及が増加した。またメディアアートの普及に伴って教科書の必要性が国際的に高まる中で、今までほとんど記述がなかった日本のメディアアートに言及する動きが出てきた。現在、アメリカで発行される予定の2つの教科書に論文を寄稿している。

Machiko Kusahara, **Bridging Art, Technology, and Pop Culture: Some Aspects of Japanese New Media Art Today**, *New Media in Asia*, Routledge, in print

Machiko Kusahara, **Proto-Media Art: Revisiting Japanese Postwar Avant-Garde Art, Companion to Media Art, Blackwell**, in print

(3) 国内での活動

ビデオアート草創期に関するシンポジウムに加え、多くの場で講演会やワークショップを企画・開催した。平成24年の春から夏にかけて渋谷FabCafeで開催したデバイスアート・プロジェクトのメンバー及び若手アーティストによる連続トークイベントは、メディアアートを「ものづくり」と結びつけ、アーティスト、エンジニアと一般の人々の交流の場を設ける試みであり、毎回満席という反響を呼んだ。これらの活動を通じて、研究代表者自身の研究のためだけでなく、メディアアートへの関心を喚起し、アートと社会を接続することに多少なりとも貢献できた。また、国内向けの教科書にも論考が掲載される予定である。(草原真知子 デジタルメディア時代のアート, 石田英敬 / 吉見俊哉 / マイク・フェザーストーン編「デジタル・メディア」第2巻, 東京大学出版会、2015年7月刊行予定)

(4) メディアアートと大衆視覚文化論との接続

本研究を通じて、西欧的な美術史観に頼るのではなく、戦前・戦後の社会・政治状況・美術・映像・マンガなどの状況と国際的な美術運動との関係と違いを捉えた上で日本のメディアアートを論じる必要があるということが明らかになってきた。これは研究代表者が進めてきた明治以降の映像史研究(写し絵、幻燈、パノラマ館、着物に描かれた写真や映画など)と接続し、本研究期間中に国際的な研究分野として確立したメディア考古学の柱の一つがメディアアートを歴史的な視点から捉え直すというアプローチにあることと軌を一にしている。今後の研究においてメディア考古学的手法の有効性をさらに深く試みる可能性が見えてきた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計1件)

草原真知子「幻燈の歴史をめぐる」武蔵野美術大学イメージライブラリーニュース 2012年10月

[学会発表](計7件)

Machiko Kusahara, The Mysteries of VICKSBURG and SEDAN PANORAMAS: Where Did They Disappear after Japan?, International Panorama Conference, 2014

草原真知子、大衆文化に見る「写真」の表象 - 錦絵、引札、着物柄、幻燈、日本映像学会大会、2014

Machiko Kusahara, From Contemporary Art to Media Art: The Trajectory of Japanese Postwar Avant-garde Art, Wonder of Fantasy International Techno Art Forum, 2014, 2014 International Techno Art Forum Proceedings pp.68-79

Alf Chang, Erkki Huhtamo, Machiko Kusahara, Wonder of Fantasy: 2014 International Techno Art Forum Panel Discussion 2, 2014 International Techno Art Forum

Proceedings, pp. 104 - 119
草原真知子, 明治日本のパノラマ館 各地歴訪の旅、日本映像学会大会、2013

Machiko Kusahara, A Virtual Tour to Japanese Panorama Halls from Fukuoka to Fukushima, International Panorama Conference, 2012

Machiko Kusahara, Seeking for Creative Use of Technology in Art:Device Art and Its Background, VINCI '12, 2012

〔図書〕(計1件)

Machiko Kusahara, Device, Gadget, and Media Society...what it takes to change: Ars Electronica 2014, Hatje Cantx, 2014, p.99

〔その他〕
ホームページ等

シンポジウム企画開催：阿部修也、Erkki Huhtamo, 草原真知子、松山洋一、「メディアとしてのロボット—ナムジュン・パイク K-456から50年—」, 2014年12月19日

<http://hyosho-media.com/news/2014/1202-k-45650.php>

講演とパネルディスカッション:「山口勝弘 1951-2014」, 草原真知子、北市記子、八尾里絵子、2014年11月3日

<http://artazamino.jp/2014/11/12/hakkutu-20141103/>

展示企画・シンポジウム：“Device Art International Exhibition – 10 Years of Device Art” ,岩田洋夫、草原真知子、Erkki Huhtamo, Victoria Vesna, Suncica Ostoic, 2014年9月4日-8日、Ars Electronica

<http://www.aec.at/c/en/deviceart/>

シンポジウム：「第3回デジタル・ショック・グローバル討論：芸術におけるデジタル」, アラン・フレシエール、藤幡正樹、ドミニク・ムロン、岡部あおみ、草原真知子 Institut Francais, 2014年2月23日、

<http://www.institutfrancais.jp/tokyo/events-manager/dc2014/>

<http://www.institutfrancais.jp/tokyo/events-manager/debatnumerique/>

シンポジウム企画開催：「ナムジュン・パイクと電子の亡霊（ゴースト）阿部修也さんとパイク・アベ・シンセサイザーのタベ」, 阿部修也、草原真知子、瀧健太郎、齋藤理恵、寒川晶子、2013年5月28日、

<http://repre.org/repre/vol19/topics/02/>

展示企画：デバイスアート・プラハ展、2013年2月8日-15日、

“Device Art: International Art Festival of Devices, Robots and Gadgets”, Pavel Sedlak, Sandra Sajovic, Suncica Ostoic, Machiko Kusahara

<http://bturn.com/events/machines-robots-and-boiled-eggs>

シンポジウム企画開催：「日本のビデオアートと実験映画：70年代を中心に」, 草原真知子、齋藤理恵、エルキ・フータモ、マイケル・ゴールドバーグ、小林はくどう、安藤紘平、瀧健太郎、2013年1月8日、

http://hyosho-media.com/news/2012/1213_70.php

イベント企画：平成マシンの会，出演：明和電機、KIMURA、高橋征資（パイパイワールド），2012年6月26日

<http://opencu.com/events/5441502:Event:62099>

シンポジウム企画開催：Fab x Media Art Talk Sessions #1、岩田洋夫、八谷和彦、クワクポリョウタ、草原真知子、2012年6月15日

<http://opencu.com/events/fab-media-art0615>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

草原 真知子 (KUSAHARA, Machiko)
早稲田大学・文学学術院・教授

研究者番号：40271366